



馬耳東風

暑さの勢でもないであろうが、東を見ても西を見ても暗い事しか頭に浮かんでこない。やはり、今、最大の関心事は大震災・原発事故とそれを巡る国・東電の対応である。この欄で行政の壁が復旧対策を遅らせるのではないかと記したが、これほどになるとは正直「想定外」だった。以前はよくTVで国会中継を見たが最近では議論が全く腹立たしい事ばかりで、「裏山の猿芝居」は健康上よろしくないと感じて見なくなった。お互いに攻撃し合っているだけで、何も前に進まない。未だに、国は党派を越えて復旧・復興に全力で取り組まなければならない等と4カ月前と同じことを言っている。これでは被災地・被災者のことを第一に考えて対応しているとは到底思えない。さらに議論する前提に党利・党略を最優先しており、最近では議員個人の利益を最優先する言動が多くなったと感じる。議員の個人的な資質に関する議論は政策に関する議論とは全く関係ないことである。会期を延長して復旧・復興対策を議論するのは良いが、その中で権力闘争が再燃するようでは日本の国会の恥の上塗りである。政策論議以外で国会議事堂を使用することを禁止すべきである。権力闘争は議事堂の外で、「勤務時間」外にやったらよいと思うがどうであろうか。勿論その経費は議員の個人負担である。議員平均1,800万円もの歳費をもらって、政策に無関係な議論に時間を潰すことなど論外である。議論していれば責任を果たしているとも思っているのだろうか。内容のない議論のために高額な議員歳費を払う必要はないと思う。与党であろうが野

党であろうが国会議員である以上、国会の機能不全に対する責任は同じであろう。この憤懣を何処に持って行けば良いのか、遣り場がなく、あまりの酷さに絶望感を抱く。

以前は国会議員の多くが、人格的に優れ、信頼される人が選ばれており、築いた地位と財産を全て叩いてでも国に貢献しようという気概が感じられた。いまは全く逆でマスコミで顔が売れたら金儲けしようと議員になるものが多く、政治も人気商売とでも思っているらしく、自分の利益のことしか考えられない議員が大部分になったと感じる。議員を選んだ国民にも責任があらうが、国家の事など真剣に考えている議員がどれほどいるのか、甚だ疑問である。大臣就任後の記者会見にサングラスを付けて応じるなど、常識的に考えても全く理解出来ない言動をするような者しか大臣候補がないというのも情けない。これほど酷い状況を見ていると国会議員など全ての議員に資格試験を義務付けたらどうであろうかと思ってしまう。国の健全財政への移行に全く見通しが立たない状況の中で、財政再建対策は先送りして自分達に都合の良い事しか決めない、1,000兆円に迫る国の借金をこれ以上増やしてどうするのか、国民の生活はどうなるか、全く道が見えてこない。領土も侵略されるのではないかと心配である。国会は日本の進む方向を決め、それに基づいて国の運営方針を決める機関である。そのため国会議員には優れた人格、鋭い洞察力と先見性それに判断力が求められると思うのだが、今の議員にそれを期待するのは無理であろうか。今回も「愚痴」になったが、もっと夢を語る事が出来る世の中になってほしいものである。(青)